

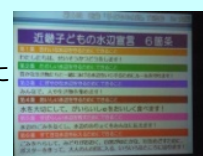
近畿子ども水辺交流会 IN大阪 2013.2.9

1年間の活動を子供同士が交流しながら、一緒に水辺について考えるフォーラムです。今年も30団体のさんかでにぎわっていました。例年と違ったことは、コーディネーターやファシリテーターが大学生や若手の方々であったこと、中にはエコクラブ出身者や今も指導する側として活躍しているお兄さん、お姉さんたちでした。私たちは、夏の沖縄交流を話しましたが、「川のない地と海のない地の交流」という私たちが気付かなかったことをコメントしていただき、そこが交流会の良さか？どたばたで作ったポスターもキレイと評価されました。

発表というのは、まとめて発信することで見た人からも学ぶことができることを教えてもらいました。夏のイベントは子どもだけでなく、エコクラブとしての生涯の自信と誇りになることなのでしょう。午後からのお宝自慢や最後の全体会では、参加者350人の子ども達が「豊かな水辺を残す宣言文」を読み上げました。いつも思うのですが、大人が変わらなければならないよな……。

近畿子どもの水辺宣言6か条

1. 私たちは清掃活動をします
2. 豊かな生き物たちと一緒に泳げる水辺を維持するためにルールを作ります
3. みんなでひとや生き物を集めます
4. 水を大切にしてお客種を美味しく食べます
5. 水辺のゴミをなくし、水辺の魅力を皆に伝えます
6. ゴミを減らして緑が多く、自然が豊かな川を目指すために、ポスターを大人の目の目に入るいろいろなところに貼ります



自分達の活動発表



他のお友達の活動も聞きます

コンサート真近 環境創作狂言「水争い」練習に熱

今年で4回目になる山内・春のふれあいコンサート、今年は1年ぶりに環境創作狂言に挑戦、夏から練習しているとは言え、バージョンアップしているの、年明けからの本格的な練習、先日は、狂言師の網谷正美先生に来ていただき、動き、場所の確認しての熱の入った練習になりました。

ストーリー：時代は水道がない頃、日照り続きの夏の日、上の村人と下の村人は、鍬と鋤をもって、毎日、田んぼの水を点検にきていた。

しかし、「昨日、あれほど水を入れるように水口を開けておいたのに、どうして水が田んぼにないのじゃ、さては、あいつらの仕業にちがいない」と、上の村人と下の村人が疑いながらの会話になり、とうとう鍬と鋤とのケンカが始まった。……。

モノや水が十分でない時代は、コミュニティでモノを助け合い分け合いました。でもたまには、こんな「水争い」もあったのです。いにしえの時代を懐かしみながら、今の時代にも必要な分け合う心を投げかけます。

また、コンサートのときにお土産バックとしての、新聞紙からつくるエコバックを日野町の古道さんに来ていただいて、教えていただきました。難しい……子どものほうが理解できたかも……新聞紙も使い方によって、きちんとした製品になることもびっくりしました。

今年の集大成としてのコンサート、みんなで成功させましょう。ハンドベルのオバちゃんたちも頑張っていますからね。



いきものみっけファーム推進協議会 専門委員会 2013.2.1

去年12月の推進協議会の総会の報告、専門委員さんの顔合わせ、事業説明を目的とした委員会を開催しました。

この「環境保全型農業」について、そもそも『環境』をどう捉えているか？といった質問が、三田村委員からありました。事務局としては、「環境」とは、人が暮らす全ての空間であり、自然環境に特化するものでないとの答えになったかどうか分からない問答がありました。

この専門委員を多分野から来ていただいている目的として、暮らしには多くの関わりと視点、つながりがあることを考えてのことです。これから、私達が知らない奥の深い農業を現場と学識を融合しながら高めたいです。それには、まずは現地の声と空気、結論としては「一度行って地元の人と話をしてこの専門委員会になにが出来るかを考えましょう」と言う事になりました。

出席者：(専門委員)三田村緒佐武 先生 金井萬造先生 皆川明子先生
 河瀬直幹 学芸員 青田朋恵 氏(県職員)
 (事務局) 大西 さん(日本環境協会) 井阪尚司(総合プロデューサー)
 森繁樹事業部長、山下英隆事務部長、小嶋毅氏 木下氏 竜王
 決定事項：委員長：三田村緒佐武 氏 副委員長：金井萬造氏
 まずは、近日中に山内に出向き、地域の方の声を聞く。



金井委員よりの助言

専門分野間の連携と良い影響を相互に与え合う取り組みとして、講座・フォーラム・実践道場・夏季講座・研究内容交流会等山内地区のホテル等を会場とした企画づくりを8月(夏休み期)・11月(文化祭時)・冬期(食)・春(イベント関連時)等を利用して、年間に1回位の開催をお願いしたいと思います。

「事業の動機、背景」のメモについて、実践交流会の内容を豊富・豊かにしていくために、フォーラム・講座・交流会等を追加し、企画に入れてください。専門家が集落・コミュニティの生活文化に触れる・体験する・地域の関係者の方々と意見交換する・宝探し(資源発掘)する・資源バンクづくりを追加することを検討してください。その場合の視点として、「農業(生業)」、「生活文化」、「生き物・生態」、「自然・環境(季節)」、「産業おこし(流通・加工・食文化・料理(もてなし))」、「交流・体験」の視点がある。

「いきものみっけファームしが」(県内農場)の期待される効果の図で、内容の豊富化の検討をお願いします。「教育」のところで、研究を研究研修・交流とし、情報発信・情報収集・交流とフォーラム・講座・実践道場。「経済」のところで、食文化・流通・交流、資源・地域文化調査。「再生」のところで、文化・工芸・技術、祭事・イベント。「伝承」のところで、世代間の伝承・生活、自然との関わり。

「地域活性化」については、農と食文化、農産物の流通、都市農村の交流、6次産業化、ツーリズム、世代間交流、地域文化の伝承、体験会・交流会等の取り組みの具体化の課題があります。

いきものみっけファーム推進協議会 営農部会 2013.2.12

出席者：伊藤氏、小崎氏(トーヨーライス) 吉田義男氏(サンワイズ)
 岡田和男、植田栄蔵、森治男、林広美、松岡勝男、森岡(農家) 田中良典(甲賀 県事務所農村振興)
 森、井阪、竜王(山内エコクラブ)

内容：吉田氏の講話

米の精による稲への影響 害虫対策など
 新品種「きんのめぐみ」の説明
 平成25年度より肥料配布、
 米の販路はトーヨーライスであることの確認

無洗米からできる金芽米

この無洗米の原料の米が、米の精からできた
 滋賀産のものであれば、まさに環境に優しい地産地消である
 滋賀で米作りして、滋賀で売って、滋賀で食べて、美味しい

オリジナルブランド化

すずか姫の金芽米

